



ねりまの文化財

令和三年度新規の登録文化財

2月22日、練馬区文化財保護条例に基づき、「光傳寺の半鐘」、「妙福寺の半鐘」、「妙福寺の半鐘」の3件を登録文化財としました。

指定・登録文化財は、学識経験者で構成される区の文化財保護審議会の答申に基づき、所有者の同意を得て教育委員会において決定します。

これにより区登録文化財は、有形文化財123件、無形文化財1件、有形民俗文化財46件、無形民俗文化財22件、史跡13件、名勝1件、天然記念物11件の合計217件となりました。このうち、特に重要であると認められる区指定文化財は49件です。

文化財は、長い歴史を通じて先人たちが築き、守り伝えてきたかけがえのない遺産です。区では、これからも地域文化の創造に不可欠な文化財の保護と活用に努めてまいります。

光傳寺の半鐘

(登録有形文化財)

こうでんじ はんしょう

〈所有者〉 宗教法人 光傳寺

〈所在〉 氷川台3-24



総高58.3 cm、口径(外径)34.0 cm。享保19年(一七三四)に、江戸の鋳物師である小幡内匠によって制作され、下練馬村の人々が光傳寺に奉納した銅製の半鐘です。

妙福寺の半鐘

(登録有形文化財)

みょうふくじ はんしょう

〈所有者〉 宗教法人 妙福寺

〈所在〉 南大泉5-6



総高66.0 cm、口径(外径)36.5 cm。享保10年(一七二五)に、江戸の鋳物師である小幡内匠によって制作され、小樽村と下保谷村の人々が本應寺に奉納した銅製の半鐘です。

本應寺は、江戸時代に妙福寺の末寺であったことが確認できます。廃寺になった後、半鐘は妙福寺の所蔵となり、現在、祖師堂の回廊に懸けられています。

妙福寺の半鐘

(登録有形文化財)

みょうふくじ はんしょう

〈所有者〉 宗教法人 妙福寺

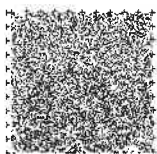
〈所在〉 南大泉5-6



総高69.5 cm、口径(外径)39.0 cm。嘉永3年(一八五〇)に、江戸の鋳物師である銅屋清次郎によって制作され、小樽村と下保谷村の人々が妙福寺に奉納した銅製の半鐘です。現在、本堂の回廊に懸けられています。

これら3件の半鐘は、作者と制作年月が明らかで、江戸時代の半鐘の形状と特徴を伝える資料として、登録文化財になりました。

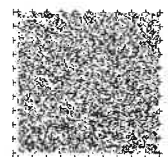
【音声コード】
携帯電話・スマートフォンアプリUni-Voiceで読み取ることができます。



練馬区指定文化財一覽													年度	No.	名称																					
15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2			平成元																				
37	36	35	34	33	32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
井頭 のヤナギ	伊賀 衆奉納 の水盤・ 鳥居	金乗 院御朱 印状	関の かんかん 地藏	相原 家薬医 門	本寿 院のみ くじ道 具	小美 濃英男 家文書	丸山 東遺跡 出土の 木製品	千川 家文書	閻魔 ・十王 像と檀 拵幢	妙福 寺の梵 鐘	三宝 寺の梵 鐘	長命 寺の梵 鐘	石幢 七面六 観音勢 至道し るべ	練馬 東小学 校のフ ジ	長享 二年の 申待板 碑	井口 家文書	井口 家文書	井口 家文書	北町 聖観音 座像	御府 内井村 方旧記	鶴の 舞	氷川 神社富 士塚	豊島 氏奉納 の石燈 籠	下練 馬の富 士塚	下練 馬の大 山道標	尾崎 遺跡出 土品	妙福 寺文書	春日 町出土 の壺形 土器	長命 寺仁王 門	服部 半蔵奉 納の仁 王像	大八 車	中里 の富士 塚	町田 家文書	北条 氏康印 判状	南蔵 院鐘樓 門	小島 家文書
平成 元 年度	昭和 63 年度	平成 8 年度	昭和 63 年度	平成 2 年度	平成 7 年度	平成 7 年度	平成 8 年度	平成 9 年度	昭和 63 年度	昭和 62 年度	昭和 61 年度	昭和 61 年度	昭和 62 年度	平成 6 年度	昭和 61 年度	平成 7 年度	平成 6 年度	平成 5 年度	昭和 62 年度	平成 3 年度	平成 4 年度	平成 2 年度	昭和 62 年度	平成 元 年度	平成 3 年度	平成 元 年度	平成 元 年度	昭和 62 年度	昭和 63 年度	昭和 61 年度	昭和 63 年度	昭和 61 年度	昭和 63 年度	昭和 61 年度	昭和 63 年度	昭和 62 年度

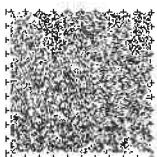
練馬区登録文化財一覽 (有形文化財)													年度	No.	名称
63	62							昭和61年度							
12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	No.			
南蔵 院鐘樓 門	小島 家文書	妙福 寺の梵 鐘	牛若 丸・弁 慶図 絵馬	双蝶 々曲輪 日記 図絵馬	石幢 七面六 観音勢 至道し るべ	豊島 氏奉納 の石燈 籠	服部 半蔵奉 納の仁 王像	*1長 享二年 の申待 板碑	北条 氏康印 判状	三宝 寺の梵 鐘	長命 寺の梵 鐘	所在地	所有者等		
中村 1 15	石神 井公園 ふるさ と文化 館 個人	南大 泉5 6	高野 台3 10	高野 台3 10	中村 3 11	石神 井台1 19	高松 3 19	(欠番)	石神 井台1 16	石神 井台1 15	高野 台3 10	・	長命 寺 三宝 寺 道場 寺 御嶽 神社 氷川 神社 (管理 者)南 蔵院		

練馬区登録文化財一覽 (有形文化財)													年度	No.	名称
2	令和元	28	26	24	23	21	20	19	17						
49	48	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38				
丸山 東遺跡 出土の 片口土 器	旧見 留家納 屋	永享 八年の 夜念仏 板碑	田中 家資料	金銅 製飾具	小竹 遺跡出 土の大 珠	丸山 東遺跡 出土の 石棒	愛染 院文書	中宮 遺跡5 号住居 址の盛 土状遺 構出土 品	旧内 田家住 宅	内田 家の屋 敷敷林	神輿 渡御行 列図 絵馬	登録 年度			
平成 25 年度	令和 元 年度	平成 27 年度	平成 18 年度	平成 2 年度	平成 16 年度	平成 21 年度	平成 19 年度	平成 8 年度	平成 19 年度	平成 3 年度	平成 12 年度				



7	6	5	4	3	2	平成元	63																															
51 井口家文書	50 三宝寺山門	49 武蔵國遺跡出土の大型檜先形石器	48 井口家文書	47 石製絵馬	46 相原正太郎家住宅	45 比丘尼橋遺跡出土の旧石器	44 井口家文書	43 増島家薬医門	42 荘家文書	41 尾崎遺跡出土品	40 御府内井村方日記	39 阿弥陀寺の半鐘	38 土支田八幡宮の半鐘	37 紙本墨画淡彩希叟宗罕像	36 絹本着色明叟宗普像	35 紙本着色以天宗清像	34 下練馬の大山道道標	33 宮田橋敷石供養塔	32 尾張殿鷹場碑	31 金銅製飾具	30 縄文時代の竹カゴ	29 新井家文書	28 横山家文書	27 相原家薬医門	26 尾張殿鷹場碑	25 * 旧震災復興仮設住宅	24 春日町出土の壺形土器	23 妙福寺文書	22 加藤家文書	21 長命寺仁王門	20 伊賀衆奉納の水盤・鳥居	19 町田家文書	18 氷川神社の狛犬	17 閻魔・十王像と檀拵幢	16 角柱型水盤	15 氷川神社の水盤	14 榎本家長屋門	13 氷川神社の旧拝殿
関町南4丁目 個人	石神井台1-15 三宝寺 個人	石神井園ふるさと文化館	関町北2丁目 個人	南田中5-14 稲荷神社 個人	春日町5丁目 個人	石神井公園ふるさと文化館	関町北2丁目 個人	谷原3丁目 個人	石神井公園ふるさと文化館 個人	春日町5-12 春日小学校	平和台1丁目 個人	練馬1-44 阿弥陀寺	土支田4-28 土支田八幡宮	桜台6-20 廣徳寺	桜台6-20 廣徳寺	桜台6-20 廣徳寺	北町1-25 地先 廣徳寺	高松2-3 地先 (管理者) 練馬区	石神井公園ふるさと文化館 個人	石神井公園ふるさと文化館	石神井公園ふるさと文化館	桜台3丁目 個人	高野台1丁目 個人	田柄5丁目 個人	大泉町3-16 大泉第一小学校	※平成11年度移転により登録解除	石神井公園ふるさと文化館	南大泉5-6 妙福寺	土支田4丁目 個人	高野台3-10 長命寺	大泉町5-15 氷川神社	東大泉7丁目 個人	氷川台4-47 氷川神社	大泉町6-24 教学院	氷川台4-18 氷川神社	南田中4丁目 個人	豊玉南2-15 氷川神社	

16	15	14	13	12	11	10	9	8	7																			
80 千川上水の記録フィルム	79 丸山東遺跡方形周溝墓出土品	78 小竹遺跡出土の大珠	77 栗原家文書	76 木下家文書	75 石神井西尋常小学校のリードオルガン	74 小林家住宅	73 相原好吉家文書	72 広川松五郎関係資料	71 子ノ聖観世音碑	70 石神井城跡出土小刀	69 中野屋商店文書	68 八ヶ谷戸遺跡出土の大形把手付縄文土器	67 橘紋椿几帳柄鏡	66 絹本着色釈迦十六善神像	65 長谷川家文書	64 北町の仁王像	63 八幡神社の本殿	62 千川家文書	61 明叟宗普の墨跡	60 本寿院の賽銭箱	59 氷川神社の神輿	58 *2 中宮遺跡5号住居址の盛土状遺構出土品	57 丸山東遺跡出土の木製品	56 金乗院御朱印状	55 阿弥陀寺の伏せ鉦	54 西大泉の稲荷神社本殿	53 高稲荷遺跡出土の旧石器	52 小美濃英家文書
石神井公園ふるさと文化館	石神井公園ふるさと文化館	石神井公園ふるさと文化館	石神井公園ふるさと文化館	石神井公園ふるさと文化館	石神井公園ふるさと文化館	石神井公園ふるさと文化館	石神井公園ふるさと文化館	練馬4丁目 個人	貫井5-7 円光院	石神井公園ふるさと文化館	石神井公園ふるさと文化館	石神井公園ふるさと文化館	石神井町5-19 禅定院	桜台6-20 廣徳寺	春日町3丁目 個人 (管理者) 北町二丁目町会	北町2-38 八幡神社	石神井公園ふるさと文化館	桜台6-20 廣徳寺	早宮2-26 本寿院	豊玉南2-15 氷川神社	石神井公園ふるさと文化館	石神井公園ふるさと文化館	錦2-4 金乗院	練馬1-44 阿弥陀寺	西大泉5-1 稲荷神社	石神井公園ふるさと文化館	大泉学園町2丁目 個人	



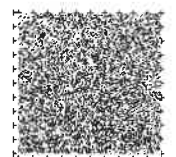
29	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17				
118 117	116 115 114	113	112 111 110 109	108 107 106 105 104	103 102	101 100	99	98 97	96 95 94	93 92 91 90	89 88 87	86 85 84 83 82 81			
千川堤植櫻楓碑	五十嵐家文書 阿弥陀堂の半鐘 武蔵大学3号館	武蔵学園大講堂 加藤家文書	丸山東遺跡出土の片口土器 アニメーション撮影台	草摺引図絵馬 石神井火車站之碑	妙福寺の駕籠 明叟宗普書状 明叟宗普道号頌	正親町天皇繪旨 貫井の東高野山道標	北新井遺跡出土の土偶 天祖神社東遺跡出土の石核	武内家資料 丸山東遺跡出土の石棒	*4 小野蘭山墓および墓誌 大泉井頭遺跡出土の有孔鍔付土器	愛染院文書 下練馬の三十三所観音菩薩像 光伝寺の地藏菩薩立像	八幡神社の水盤 旧内田家住宅 関東大震災犠牲者慰霊碑	*3 田中家資料 住居址出土土器 中村南遺跡第2地点5号	千川上水調査アルバム 東早淵遺跡出土の局部磨製石斧 内国勸業博覧会褒状	関口家文書 愛染院の梵鐘	織部燈籠
小竹町1-59	石神井公園ふるさと文化館 北町2-18	豊玉上1-26 豊玉上1-26	石神井公園ふるさと文化館 石神井公園ふるさと文化館	石神井町3-23	桜台6-20 桜台6-20 南大泉5-6	桜台6-20 桜台6-20	石神井公園ふるさと文化館 貫井5-17	石神井公園ふるさと文化館 石神井公園ふるさと文化館	練馬4-27	春日町4-17 氷川台3-24 氷川台3-24	氷川台3-24 氷川台3-24 中村南3-2	中村南1-2 北町5丁目	石神井公園ふるさと文化館 石神井公園ふるさと文化館	春日町4-17 土支田3丁目	高松3丁目 春日町4-17
浅間神社	阿弥陀堂	根津育英会武蔵学園	個人 個人	妙福寺	廣徳寺 廣徳寺	廣徳寺	個人	個人 迎接院	愛染院 光傳寺	光傳寺 八幡神社	円明院 個人	根津育英会武蔵学園	個人 個人	愛染院	個人

63	62	昭和61年度	
6	5	4	3
関のかんかん地蔵	大八車	弥陀三尊来迎画像板碑	北町聖観音座像
関町東1-18地先(管理者) 三宝寺	石神井公園ふるさと文化館	石神井台1-15 三宝寺	北町2-38 (管理者) 北町二丁目町会
			所在地
			所有者等

(有形民俗文化財)	
No.	名称
6	元 1 * 龜甲螺鈿蒔絵
5	4 * 棒柄の製作技術
5	3 絵馬制作
5	4 * ホウキ製造技術
5	3 * ホウキ製造技術
	* 篠田歳治・平成23年死亡により登録解除
	* 鹿島佐平・平成10年死亡により登録解除
	* 平田郡司
	所在地
	所有者等

(無形文化財)	
No.	名称
30	元 1 山口家資料
3	2 鴨下家文書
3	2 光傳寺の半鐘
3	2 妙福寺の半鐘
3	2 妙福寺の半鐘
	*1 平成7年度有形民俗文化財No.19へ種別変更のため欠番
	*2 平成20年度高坏形土器を追加し名称変更
	*3 平成28年度名称変更
	*4 墓誌は平成23年11月から石神井公園ふるさと文化館で保管
	所在地
	所有者等

30	元 1 山口家資料	錦2-4 金乗院
3	2 鴨下家文書	石神井公園ふるさと文化館
3	2 光傳寺の半鐘	土支田3-34 土支田農業公園
3	2 妙福寺の半鐘	石神井公園ふるさと文化館
3	2 妙福寺の半鐘	氷川台3-24 光傳寺
		南大泉5-6 妙福寺
		南大泉5-6 妙福寺




		平成元年度		3		6		10		16		17		21		23	
No.	名称	No.	名称	No.	名称	No.	名称	No.	名称	No.	名称	No.	名称	No.	名称	No.	名称
63	練馬白山神社の大ケヤキ	1	練馬白山神社の大ケヤキ	4	八の釜の湧き水	5	内田家の屋敷林	6	練馬東小学校のフジ	7	光伝寺のコウヤマキ	8	開進第一小学校のクスノキ	9	土支田八幡宮の社叢	10	井口家の屋敷林
	所在地		練馬4-2		東大泉2-27		早宮3丁目		春日町1-30		水川台3-24		早宮2-1		土支田4-28		錦2-4
	所有者等		白山神社		国		個人		練馬東小学校		光傳寺		開進第一小学校		土支田八幡宮		金乗院


		平成元年度	
No.	名称	No.	名称
8	牧野記念庭園	1	練馬白山神社の大ケヤキ
	所在地		練馬4-2
	所有者等		白山神社

		平成元年度		昭和63年度	
No.	名称	No.	名称	No.	名称
8	旧大泉村役場跡	7	千川上水跡	6	栗原遺跡の竪穴住居跡
7	大泉学園町2-2	7	大泉学園町2-2	5	池淵遺跡
9	田柄水記念碑	8	田柄水記念碑	4	尾崎遺跡
10	千川家の墓	9	千川家の墓	3	池永道雲墓
11	河野鎮平筆子碑	10	河野鎮平筆子碑	2	*小野蘭山墓
12	田柄用水跡	11	田柄用水跡	1	東高野山奥之院
13	圓淨法師塚	12	圓淨法師塚		
14	観蔵院の筆子碑	13	観蔵院の筆子碑		
	所在地		春日町5-35		
	所有者等		観蔵院		


*墓誌を追加し名称変更・有形文化財No.98へ種別変更のため欠番



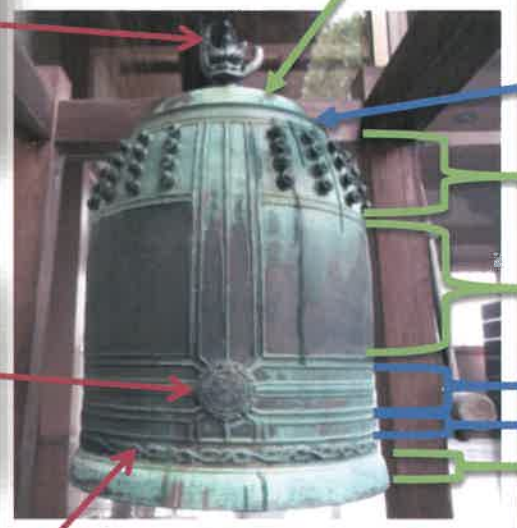
龍頭(りゅうず)



撞座(つきざ)



下帯(かたい) 本半鐘には唐草文が表現されています。



笠形(かさがた)

上帯

乳の間(ちのま)

池の間(いけのま)

中帯

草の間(くさのま)

駒の爪(こまのつめ)

梵鐘・半鐘の各部の名称

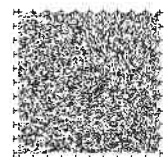
写真は、光傳寺の半鐘です。

※所有者欄に記載のないものは練馬区所有

◆石神井公園ふるさと文化館

石神井町5-12-16

☎03(3996)4060





新登録文化財の

半鐘

区指定・区登録の梵鐘・半鐘

江戸時代の製造年をもつ区内の梵鐘・半鐘のうち、区指定文化財は、長命寺の梵鐘(一六五〇年製造)、妙福寺の梵鐘(一六六四年製造)、三宝寺の梵鐘(一六七五年製造)の計3件です。区登録文化財は、愛染院の梵鐘(一七〇一年製造)、阿弥陀寺の半鐘(一八〇四年製造)、阿弥陀堂の半鐘(一八四三年製造)、土支田八幡宮の半鐘(一八四四年改造)、今回新規に登録となった3件を加え、計7件です。

半鐘とは

半鐘とは小形の釣鐘です。撞座を撞木で叩いて鳴らします。寺院の法会開始の合図などに用いられましたが、後に火の見櫓(やぐら)にも吊るし警鐘のために用いられるようになりました。

日本の鐘の生産は7世紀に始まり、鎌倉時代にかけて定型化していきます。今回新規に登録文化財となった3件の半鐘の形状を見ると、撞座は下方に位置し、龍頭の頭と同じ向きであること、池の間が広く陰刻銘文であること、駒の爪の肥厚などの特徴があります。これらは定型化後のもので、江戸時代の多くの鐘に見られるものです。

光傳寺の半鐘

来歴

昭和18年(一九四三)、第二次世界大戦中の金属類回収令により供出されたが、供出直後、高松の火の見櫓の半鐘と交換されたことで溶解を免れた後、火の見櫓の半鐘として使われ、櫓が取り壊された後、区立高松小学校で資料として保管されましたが、体育館の工事のため、平成9年(一九九七)に高松町会に移されました。鏝を落として、光傳寺の名前が判読できたことで、54年ぶりに同寺へ返納されました。

半鐘の銘文と地域の人々の名

※紙面の都合で、銘文の字の配置や改行位置は変更してあります。

(縦帯) 武州豊嶋郡下練馬邑

大明山無量院光傳寺

(池の間第1区) (梵字光明真言3行)

(縦帯) 四世法印 堅教求紛失

現任法印 秀海辨之

(池の間第2区)

願以此功德 普及於一切

我等與衆生 皆共成佛道

(縦帯) 享保十九歳

甲寅八月吉日

(池の間第3区)

為松月慈光信士菩提

施主 宗左美甚平

講中施主為二世安樂四拾余人

篠半左衛門

同 甚五兵衛

同 三良兵衛

風祭五良右衛門

(縦帯) 江戸神田住

小幡内匠作

(池の間第4区)

庚講中 九人 願主 篠平兵衛

随霜體空信女

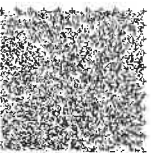
池の間と縦帯に銘文が陰刻されています。特徴を紹介します。池の間第1区と第2区の間縦帯の銘は、光傳寺住職の第4世堅教が紛失した半鐘を求め、第7世秀海の代で調えたというように読めます。寺伝によると堅教の代で改宗を行っており、半鐘を求めたこととの関連が連想されます。

池の間第3区にある「松月慈光信士」は男性の戒名で、光傳寺の記録によると、享保17年(一七三二)に亡くなった浅見家の「甚五兵衛」と一致します。施主「宗佐見」は、「宇佐見」の書き損じで、宇佐見は「あさみ」と発音したと推定されます。また、現世の安穩と来世の極楽往生を祈ることを意味する「二世安樂」とともに、講中施主の人数と4名の名が刻まれ、浅見家親族の供養と講中施主の「二世安樂」を祈ったことがうかがえます。

なお、講中施主のうち、風祭五良右衛門の名は、境内にある享保14年(一七二九)の銘の宝篋印塔(ほうきょういんとう)の講中施主名にも確認できます。また、篠半左衛門、篠三良兵衛の名は境内の宝永5年(一七〇八)8月15日銘の庚申塔にも確認できます。池の間第4区にある「随霜體空信女」は女性の戒名で、光傳寺の記録によると、正徳4年(一七一四)に篠家の施主「平四郎」によって供養されていることが確認でき、篠平兵衛親族の供養と庚講中の子孫安樂を祈ったことがうかがえます。

作者の小幡内匠について

銘文にある「江戸神田住」および他の小幡内匠作品の銘から、神田鍛冶町・神田鍋町(現千代田区)付近に住したことがわかります。正徳2年(一七一二)から明和6年(一七六九)の江戸時代中期に制作された金工品の中に「小幡内匠」または「小幡内匠藤原勝行」、「小幡内匠勝行」の名が見られ、銅製の燈籠・梵鐘・半鐘・宝篋印塔を合わせて50点が知られます。作品は、東京、埼玉、神奈川、千葉、福島、岩手に分布します。燈籠は、増上寺(港区)の徳川將軍家6代家宣、7代家継、9代家重の霊廟前に奉納されたものです。なお、制作年が57年に及ぶ



ため、同時期の作品が同一人物によるものかどうかは断定できません。

区内における小幡内匠の作品は、本半鐘のほかに、次の享保10年(一七二五)10月銘の妙福寺の半鐘があります。

妙福寺の半鐘

来歴

「法光山本應寺」の半鐘として制作され、後に、本應寺の本寺にあたる妙福寺の所蔵となりました。

半鐘の銘文と銘文に刻まれた地名

(池の間第1区) 武弼小樽村

法光山本應寺常住

十八世日欣代

享保十乙巳天

十月大吉日

小幡内匠作

(池の間第2区)

奉納 當村

本願主

永井三郎兵衛

並 講中拾九人

願主

井口半兵衛

講中三拾二人

(池の間第3区)

同 井口作右衛門

講中二拾三人

同

井口三十郎

講中二拾三人

(池の間第4区)

同

田中長兵衛

講中拾五人

同下保谷 講中

同西久保前新田

講中

池の間に銘文が陰刻されています。

特徴を紹介します。池の間第2区から第4区に、小樽村の本願主の名と講中の人数、願主の名と講中の人数、「下保谷」と「西久保前新田」の「講中」を陰刻。「下保谷」は、小樽村西側に接する下保谷村のことで、現在の西東京市の北部です。「西久保」は「妙福寺過去帳前書・中書」(宝暦10年(一七六〇))で、宝永2年(一七〇五)に妙福寺が

買い取った土地として小樽村の字名と併記されていることから、小樽村内の字名と考えられます。「前新田」は小樽村内の字名で、現在の南大泉2丁目・4丁目付近です。

妙福寺末寺の本應寺 本應寺の沿革について、次の諸史料から断片的に確認できます。創建は「妙福寺附明細改帳」(文政8年(一八二五))により、延文2年(一三五七)と記述があります。

寺の名称は、「小樽村村柄様子明細書」(宝暦4年(一七五四))、「妙福寺末寺定書」(文化3年(一八〇六))に確認でき、「妙福寺附明細改帳」には、法光山本應寺安楽坊跡本應院の名称と開祖安楽坊日信大徳から始まる歴代住

職名の記載と半鐘の銘文にある「十八世日欣」の名が確認できます。「妙福寺過去帳前書・中書」により、宝永4年(一七〇七)に、「裏山安楽坊」の「本屋舗」を、宝永2年(一七〇五)に妙福寺が買い取った西久保の地に引替えた記述があります。また、文化7年(一八一〇)から文政13年(一八二九)に編纂された『新編武蔵國風土記稿』によると、「本應院 村ノ西ノ方南ニヨリテアリ」と記載があり、さらに、『武蔵国新座郡村誌』(明治8年(一八七五))によると、本應院は「東西十二間南北十三間面積百七十坪妙福寺の隠室なるを以て該寺の傍にあり」と記載されています。妙福寺の寺伝によると、明治時代、本應寺は妙福寺の北側にあった現在の東陽霊園(西大泉1丁目13番)に位置していたとのことです。

これらのことから、江戸時代中期に妙福寺の裏山に安楽坊があったこと、西久保の地に引き換えがあったこと、後に現在の妙福寺北側に隠室として残っていたことがうかがえます。

妙福寺では、本應寺の廃寺後、墓石、半鐘、曼荼羅等を預かり、平成14年、妙福寺境内西側に葬儀会館の本應院を開設した時に墓石を妙福寺墓地から会館の敷地へ移設しました。

妙福寺の半鐘

来歴

安政6年(一八五九)の「妙福寺什物

帳」に「本堂」の什物として記載があり、当初より本堂の半鐘として铸造されたことがわかります。

作者の銅屋清次郎について

銘文に「江戸大門通」に在住したと

あります。現在の中央区日本橋小伝馬町から日本橋人形町までの通りのことです。香取秀真『江戸鑄師銘譜』によると、銅屋には、銅屋金兵衛、銅屋寅次郎、銅屋仁兵衛、銅屋仁三郎の4名の記載があり、いずれも大門通に所在しています。天保5年(一八三五)刊

行の『江戸名所図會』に紹介される「大門通」には、大八車で梵鐘を運ぶ挿絵と「昔此地に吉原町ありし頃の大門の通りなりしによりかく名つく今ハ銅物屋馬具師多く住り 鐘ひとつうれぬ日

もなし江戸の春 其角」の注記があり、銅物問屋が軒を連ねていた通りであるとわかります。「銅屋清次郎」の名は、『江戸鑄師銘譜』に掲載はありませんが、文政7年(一八二四)刊行の『江戸買物獨案内』に「釘鉄銅物問屋/通旅籠町/銅屋清次郎」の記載を確認でき、同一人物であるならば、銅物問屋が铸造も請けおつていたことが想定されますが、実態は不詳です。

